

外国人材の雇用考える 浜松で交流会



製造業などの担当者が外国人雇用について考える交流会が2日、浜松市中央区の浜松西テクノ協同組合で開かれた。写真。外国人の日本語教育などを手がけるオイスカ開発教育専門学校（中央区）の鬼石貞治校長らを招き、日ごろ感じる課題などを話し合った。

同校は新型コロナ禍で募集を停止し、今年から本格的に授業を再開した。日本語科には現在、インドとネパール国籍の7人が在籍。卒業後にスズキの関連企業に就職したいと望む学生もいるといい、鬼石校長は「浜松市内の企業と連携し、積極的に学生を送り出した

い」と話した。

参加者は、日本語が通じないことから互いの意見に食い違いが生じてしまったケースや、円安が進んだため技能実習生が母国への送金を控えた事例などを紹介した。交流会はLPガス販売のエネジン（中央区）が主催。浜松西テクノ協同組合に加盟する10社から約20人が参加した。（成田はな）